

試験開始の合図があるまで問題冊子を開かないで下さい。

この問題冊子は全部で十四ページあります。

解答用紙の所定欄に受験番号とマーク、氏名とフリガナを必ず記入して下さい。

解答用紙には問題番号が **1** から **50** までありますが、解答に使用する問題番号は **1** から **42** までです。

解答時間は六十分です。

解答用紙は必ず提出して下さい。

問題冊子は持ち帰って下さい。

数字の位置に注意してマークして下さい
ゼロは一番上にあります

1. 解答は、HB の黒鉛筆を使用して丁寧にマークして下さい。
2. 訂正する場合は、プラスチック消しゴムで、きれいにマークを消して下さい。
3. 所定の記入欄以外には、何も記入してはいけません。
4. 解答用紙を汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

 薄いマークは読めません

I 次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。

筆者はかつて、経済（交換）だけでなく、モラル（互酬性）もまた、等価に基づく負債感情と人間相互の支配・被支配関係を決定付ける政治システムにキケツ^aしてしまうことを、グレーバー^{（注1）}を手掛かりに強調したことがある。たしかに贈与がもたらす被贈与感（負債感）は贈与者と受贈者のあいだに序列を生み、さらにこの序列は個人的関係を超えて社会的支配構造の基盤ともなりうる。しかしこうしたシニカルな見方^アだけではモラルの重要な側面を取り逃がすことになる。

経済もモラルもどちらも広義の「交換」と括ることができるのと同様に、どちらも広義の「贈与」と見なすこともできる。道徳的行為における贈与は、感謝や恩義といった形で長期的な関係の中で返礼がなされることが多いのに対し、経済的行為における贈与は即座に等価交換が求められる。しかしどちらにおいても贈与物が循環するような円環構造が支配^イしている。

他方、道徳的行為^ウの中にも交換性の強いものと、贈与性の強いものがある。前者は相対的に疎遠な人間関係、たとえば上司と部下の関係や友人関係などに見られる。これらは表面的には信頼関係や友好関係に見えるが根底に競争や打算を抱えており、長期的な信頼関係を育む土台とはなりにくい。これに対し、贈与性の強い道徳的行為は、子に対する親の無償の愛のように、相対的に身近な家族間などに典型的に見られる。もちろんそうした関係もまた競争や打算に動機付けられることは避けられないが、しかし真にモラルと呼べるものとすれば、それは交換性の強い道徳的行為を、そうと自覚のうえで、それでも贈与性の強い道徳的行為へと不断に置き換えていくことであろう。受贈者が負債感を抱く

ことは避けられないにせよ、相手にそれと気付かれないように、相手の負債感を最小限にする配慮があるなら、動機がどうであれそのような道徳的行為は限りなく「純粹贈与」に近付く。

しかし、そうと気付かれないような純粹な道徳的行為を社会は認識することができない。逆に言えば社会の表面に出てくるような麗しい道徳的行為はいずれも、Xの強いものだということになる。純粹贈与は「不可能」なのではない。「不可視」であるがゆえに評価されがたいだけなのだ。

しかし純粹な道徳的行為（純粹贈与）は、義務として力^bされてもしなければ、当事者の自発的・偶然的な行動に委ねるほかはない。それではあまりにも頼りない。グレーバー^{（注2）}が「間に合わせのコミュニズム」を説いたように、たとえばスコット^{（注2）}は、理念やイデオロギーとは無縁の「善の個性性」と、また国家への公然たる反逆とは無縁の「底流政治^{インフラ・ポリティクス}」の重要性を説いている。つまりユダヤ人難民に対する反射的な救済や、無名脱走兵の記念碑の建立などのような、一見すると目立たない消極的な行為は、幾千もの脱走や怠業や失踪などのような臆病で不名誉な不服従行為と同様に、それらが目立たないことにかえって権力の側に甚大なダメージを与えうるというのだ。

英雄気取りの公然たる反乱や反抗が権力の目に付くことによって容易に取り締まりの対象となるのとは逆に、そのような慎み深い小さな行為が、合意や共謀を介さずに積み重なり知らぬ間に「集合的見解」になると、権力は対処の仕様がな^cない。この「歯向かう」のではなく「出ていく」という逃亡の技法は「日常的な底流政治」ともいえるものであり、たしかにリスクの低いダイタイ案である。注目の回避、不可視性の追求こそが要なのだ。

たしかに「逃亡の技法」の不可視性は、純粋な道徳的行為（純粹贈与）の不可視性とは似ても似つかないものである。しかし「不可視性」を逆用することによって、支配・被支配の円環構造に風穴を開けようとする有効な試みであることは間違いない。しかし問題は、そのような「善の個別性」や「底流政治」もまた、既存の体制の補完要素にしかならないのではないかという点にある。

スコットが指摘するように、階層秩序なき「相互性」を具現化した非公式の協力はすでに多くの村落や近隣組織において見られる。それらは非公式かつ一時的な協調のネットワークがあるがゆえに機能しているのであり、公式の組織や階層秩序を必要としない。そうした日常生活の行為は、支配的な権威主義的傾向と並存し、それに逆らいながら社会の底流で実践されているのである。たしかにそうした日常生活における非公式の協力は、特定のイデオロギーに先立つ個別的行動によって可能になったものであろう。しかし「個別性」は必ずしも「善」に結び付くとは限らない。

たとえばフランク・バヨール^(注3)らは、ナチスが政権をシヨウアクした一九三三年以降、非ユダヤ人が「ユダヤ人の友」と見なされることを避け、それまで親交のあったユダヤ人から距離を置くようになったことを指摘している。このとき小規模な村落や近隣組織はむしろ厳格な監視・密告社会として機能したと言えるだろう。スコットの挙げるユダヤ人難民に対する反射的な救済の事例とは逆に、この場合は「個別性」が望ましからぬ方向に作用したのだ。すると、個別性の認識に基づく場当たりのな同情を凌駕する、共通の理念や信条のようなものがやはりどうしても必要となる。それが善なる行為や純粹贈与の土壌となるとは言えないだろうか。

同様のことは、農村共同体における共助システムについても指摘できる。たとえばニジェール河中流域のあるイスラム教徒の村では、ザカート（五大義務の一つとしての喜捨）やサダカ（自発的な喜捨）の忠実な実践によって再分配システムが機能しているという。そこでは農家間の格差が著しいが、それでも持てる者から持たざる者への贈与が村の権力者や市場を介さずに直接行なわれている。したがって権力の集中を招くことなく再分配システムが機能しているのは、ここでも人々が共通の信条を持っているからなのだ。

筆者はかつて「勤勉でない貧者」こそが来るべき経済秩序の先駆者となりうるのではないかと希望的観測を述べたことがある。しかし「勤勉でない貧者」のみでは社会は成立しないし、階層分化もまた避けることはできない。したがって少なくとも「勤勉でない貧者」に先立ち「強欲でない富者」が存在し、彼らが見返りを求めない純粹贈与を他方で行なうことが必要である。そのようなことはいかにして可能だろうか。「強欲でない富者」が登場し、気紛れではなく彼らを恒常的に純粹贈与に駆り立てるような新しい理念の浸透、少なくとも価値観の変容がやはり必要ではないだろうか。

（大黒弘慈「商品に抗するアナキズム——資本の統治を免れる——」、
出題上の都合により一部改変）

注1 グレーバー——デヴィッド・グレーバー。一九六一〜二〇二〇年。アメリカの人類学者。

注2 スコット——ジェームズ・C・スコット。一九三六〜二〇二四年。アメリカの政治学者、人類学者。

注3 フランク・バヨール——一九六一〜。ドイツの歴史学者。

問一 二重傍線部 a・c・d と同じ漢字を用いるものを、次の①～④からそれぞれ一つずつ選びなさい。

① a 「キケツ」

- ① 作戦は雨天ケツコウだ
- ② 試験のケツカ発表を待つ
- ③ 計画をキドウ修正する
- ④ キソク正しく生活する

② c 「ダイタイ」

- ① チンタイマンションに住む
- ② タイレッツを作って並ぶ
- ③ ゼンタイのバランスを考える
- ④ 紙幣をリョウガ工する

③ d 「ショウアク」

- ① 実権をショウチュウに収める
- ② 知人の依頼をショウダクする
- ③ 関税についてコウショウする
- ④ 契約客とセツショウを重ねる

問二 二重傍線部 b 「カ」の漢字表記で用いられる部首を、次の①～④から一つ選びなさい。

④ ① ごんべん ② くさかんむり

- ③ にんべん ④ のぎへん

問三 傍線部ア「こうしたシニカルな見方」の問題点はどのようなことか。筆者の考えとして最も適切なものを、次の①～④から一つ選びなさい。

⑤ ① 身近な家族関係であつても、モラルには根底に競争や打算があることに気付かないままにいること。

- ② 贈与物が循環する円環構造に支配されているという点から、モラルを経済と並べて論じられないこと。

③ モラルが、返礼や恩義などの形で長期的な人間関係を育むために有効な円環構造をもってしまうこと。

- ④ モラルは、負債感への配慮があれば極めて贈与性の強い道徳的行為へ近付くことが見逃されること。

問四 傍線部イ「どちらにおいても贈与物が循環するような円環構造が支配している」とはどのようなことか。最も適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

④ ① 贈与者は被贈与者に被贈与感をもつが、即座に等価交換されるとその立場はいれかわり続けること。

- ② 贈与者は受贈者に感謝を与えることで個人的関係が円滑になり、社会基盤の構造が安定すること。

③ 受贈者は贈与者に負債感を抱くため、等価交換や返礼などの形でいずれは報いなくてはならないこと。

- ④ 被贈与者は贈与者に交換と贈与のどちらも行うことができるが、贈与物の価値は一定であること。

問五 傍線部ウ「道徳的行為」について、本文の内容と合致するものは

どれか。最も適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

⑦ ① 経済のように、交換性をもち等価交換が原則である関係においては、道徳的行為は成立し得ない。

② 社会における信頼関係や友好関係は、基本的に相手への配慮があるため、道徳的行為のうち贈与性が強いものである。

③ 相手に見返りを求めない道徳的行為であっても、支配・被支配という関係を作り得るものである。

④ 無償の愛によって成立する典型である親子関係は、贈与性のみで存在するモラルの真価といえる。

問六 空白部□Xに入る最も適切な言葉を、次の①～④から一つ選びなさい。

⑧ ① 真のモラルをともなう贈与性

② 贈与物の循環をともなう交換性

③ 不可視の循環をともなう贈与性

④ 真のモラルをともなう交換性

問七 傍線部エ「一見すると目立たない消極的な行為」が権力に対して

有効であるのはなぜか。最も適切なものを①～④から一つ選びなさい。

⑨ ① 権力側は見つけにくく、取り締まるのに時間がかかるから。

② 集合的見解は慎重深く、隠されがちで発覚しにくいから。

③ 知らないうちに蓄積され、集合的見解になると力をもつから。

④ 個人の行為であるため、権力の無力さが明らかにされるから。

問八 傍線部オ「逃亡の技法」の「不可視性」：力「純粹な道徳的行為（純粹贈与）」の「不可視性」の説明として最も適切なものを、次の①～④

から一つ選びなさい。

⑩ ① 「逃亡の技法」は社会や権力から注目されることを回避するが、「純粹な道徳的行為」は贈与性が強いいため社会の表面に現れにくく、認識されにくい。

② 「逃亡の技法」は無名の人の個人的な理念による行動であるためリスクが低いが、「純粹な道徳的行為」は親が子へ見返りを求めず注ぐ愛のようにリスクがそもそもない。

③ 「逃亡の技法」は権力の注目を回避するよう意識して行われるので目につきにくいが、「純粹な道徳的行為」は人々が日常生活のなかで行うため目につきにくい。

④ 「逃亡の技法」は目立たない行為の積み重ねであるため社会の円環構造を脱しても見えにくい、が、「純粹な道徳的行為」は動機が何かを問わないためそもそも見えない。

問九

傍線部キ「既存の体制の補完要素にしかないのではないかと筆者が考えるのはなぜか。最も適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

- ⑪ ① 村落の人々の行為のように、個性性は日常生活における協力に限られ、権力が無関係な分野でしか機能しないから。
② 非公式かつ一時的なネットワークは、相互性により機能するが、その協力する対象には公的権力も含まれるから。
③ 非公式の集団において機能する共助システムは、自分たちに共通の信条があれば、既存の体制を真似るから。
④ 特定のイデオロギーによらない個別的行動であっても、支配的な権威にとつて望ましい選択をすることがあるから。

問十

傍線部ク「同様のこと」とはどのようなことか。最も適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

- ⑫ ① バヨールが挙げる非ユダヤ人の例のように、個性性の認識に基づく場当たりのな同情を凌駕すること。
② スコットが挙げるユダヤ人難民への反射的な救済の例のように、個別的な善によって他者を助けようとする事。
③ スコットが指摘するような非公式の協力は、善なる行為を促進する共通の理念があると、より機能すること。
④ バヨールが分析したナチス政権の村落組織のように、宗教や思想による国家体制を人々が行為の指針にすること。

問十一

傍線部ケ「階層分化もまた避けることはできない」のはなぜか。最も適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

- ⑬ ① 勤勉に努力しても成功できるとは限らないから。
② 交換や贈与によって人々に序列が生まれるから。
③ 富者には新しい信条を学び続ける機会があるから。
④ 経済秩序を必要としない組織はまだ見られないから。

問十二

問題文の内容と合致するものを、次の①～④から一つ選びなさい。

- ⑭ ① 持たざる者である「勤勉でない貧者」は贈与行為を行うことができないため、持てる者である「強欲でない富者」が、純粹贈与という新しい価値観をもつ必要がある。
② 権力の支配が及ばない社会の底流では、純粹贈与の土壌となる農村共同体における共助システムのように、階層秩序がなく相互に協力し合う社会が機能する。
③ 一見すると目立たない消極的な行為は、一人ひとりが日常生活で抱える政治への不満を表し、同じ思いが連鎖することで積み重なり、権力に対して大きな力となる。
④ 見返りを求めない「強欲でない富者」が「勤勉でない貧者」に先立って存在するためには、支配・被支配という円環構造とは別の新しい理念の浸透が必要である。

Ⅱ 次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。

人がある時代にある地域に生まれ落ちて、その言語を学ぶというのは、何をどのような言葉で表現するかを学ぶことであり、そしてそれは、成長して伝統へと入っていくことでもある。

たとえば日本に生まれ落ちた子どもは、ここが「外」であり、これが「雨」であることを学び、さらには、これが「にわか雨」だったり「霧雨」だったり「五月雨^a」だったりすることを学ぶ。あれが「つれない」しぐさだとか「歯がゆい」態度だとか、「嫉妬」に燃えているとか「軽蔑」されているなどと語ることが学び、また、そのような発話の意味を理解することを学ぶ。それは言い換えれば、ときに言葉なしには立ち現れえないような物事の相貌を捉え、その相貌に関心を向けることを学ぶ、ということなのである。

それはちょうど、工具^イの使い方を学ぶようなものだ。なぜなら、親や教師をはじめとする人々からその用途を学び、技術を磨いて、ちゃんと使いこなせるようになることで、物事の特定の相貌に目が開かれるという意味では、言葉も工具も同じだからだ。たとえば、強風で庭の木が折れて倒れたとしよう。木を加工する工具の意味や使い方を何も知らなければ、それはたんなる倒木^ウでしかない。だが、家や学校などで鋸^{のこぎり}や鑿^{のみ}、彫刻刀の使い方を学んで十分な技術を身につけている場合には、その倒木を、自分で木彫りの作品や木製の食器などをつくるための木材^エとして見ることも可能になる。この倒木を使ってどんなものを作ることができるだろうか、という種類の関心をもつことができるのである。

子どもが生まれ、親や教師などに育てられ、個々の生活圏や文化圏の伝統へと入っていくなかで学ぶ言葉は、鋸や鑿などの工具と同様に物事

の見方を——つまり、A——特定の仕方で方向づけている。

たとえば、フランス語では蝶^{ちょう}と蛾^がを「papillon (パピヨン)」というひとつの言葉で表す。フランスの百科事典やヒョウホン^b展示などでも、蝶と蛾を特に区別せずに混ぜて並べていることがある。他方、日本ではまさに「蝶」と「蛾」という別々の言葉を用いて、この区別を重視している。また逆に、日本語では牛を指す単語は「牛」しかないが、フランス語では、雄牛は「taureau (トロー)」、雌牛は「vache (ヴァッシュ)」、仔牛^cは「veau (ヴォー)」というふうに別々の短い単語が存在するし、英語ではもっとその種類が多い。

さらに、同じ地域でも時代によってこうした違いは生じうる。たとえば、江戸時代の日本において「茶」は、現代の日本では「緑」や「オレング」^ジと呼んで区別するような色彩も指していた。

アメリカの人類学者・言語学者エドワード・サピア(一八八四～一九三九)によれば、個々の言語は個々の社会集団において長年受け継がれた社会的慣習^{たまもの}の賜物であり、歴史的な文化遺産であって、それゆえ、社会集団ごとに相当異なる特性をもっている。そして、物事に対する人の見方や考え方自体が言語によって大きく左右されると主張し、次のように続けている。

……言語というものは、伝達^cやナイセイ^cといった特定の諸問題を解決するための単なる偶然の手段にすぎないと考えることは、まったくの誤解である。つまり「現実世界」は特定集団の言語習慣の上に相当な程度まで無意識的に構築されているのである。(『言語・文化・パーソナリティ』、平林幹郎訳)

ここでサピアの言う「相当な程度まで」というのが実際のところどの程度までのことを指すのかについては、さまざまな考え方がありうるだ

ろう。文字通り、言語によって現実世界のあり方が構築されていると考えるならば、言語が違えば色の見え方自体も違う、といったことになるだろうが、ここではそこまで極端には考えず、もう少しオントウに捉えておこう。たとえば、江戸時代の日本人は、いまの日本人が「緑」や「オレンジ」と呼ぶ色の区別自体ができなかった、とまで考える必要はない。ただ少なくとも、彼らがいまよりも特定の色彩に関して比較のおおまかなカテゴリー分けをおこなっていたことは確かだ。

同様に、日本人は欧米人と違って雄牛と雌牛と仔牛の区別がつかない、というわけではない。そうではなく、「taureau」や「vache」や「veau」というふうに使ったく別の単語を必要とするほどには、牛の牧畜や乳製品、牛食といったものが生活のなかに根を張っていなかったのだろう。言い換えれば、日本人の生活形式は歴史的に、牛の牧畜や乳製品などがおそらく欧米人ほど重要な位置を占めないものだったということだ。

ただ、いずれにしても、先のサピアの指摘は重要な真理を衝いている。つまり、個々の言語は、他者に何かを伝達したり自分のなかで振り返ったりするために用いられる単なる手段なのではなく、Bのである。

そしてそれは、日本語文化圏に生まれ育つ子どもは「papillon」ではなく「蝶」や「蛾」について伝えたり考えたりすることを学ぶ、といったことだけではない。たとえば、その子どもは成長のカティで、夕焼けの風景が「せつない」ことや、誰かの恋愛が「せつない」ことなどを学ぶだろう。しかし、この「せつない」という言葉をフランス語やドイツ語や英語などに翻訳しようとしても、少なくとも一語でぴったり対応するような言葉を見出すのは困難だ。同じことは、「つれない」や「いすい」等々の言葉についても言える。

肝心なのは次の点だ。日本語であれフランス語等々であれ、個々の言

語が息づく生活形式を身につけ、その文化へと入っていくなかで、人は物事の見方や考え方それ自体に関して相当程度、その習得した言語に含まれる言葉の影響を受けるようになる。たとえば、何かを「せつない」ものという相貌の下で見ることができるのは、この言葉が生活の流れのなかでどう用いられるかを十分に理解している者だけなのである。

サピアの言う通り、言葉というものは、何らかの内容（物事のあり方、考え、感情、等々）を他者に伝達したり自分のなかで振り返ったりするためのたんなる手段ではない。私たちは、ときに他の言語には翻訳できない言葉も用いて発話をおこなうことにおいて、物事の特定の相貌に関心を向ける。そして、その相貌について考えたり、他者に伝えたり、話し合ったりする。たとえば、「それはせつないよね」というふうに。これは言い換えれば、言葉は、伝達したりナイセイしたりする内容そのものの生成に深く関与しているということだ。

私たちの物事の見方や考え方は、歴史的な文化遺産としての言語によって——そして、それに反映されている伝統的な見方や考え方によって——否応なく一定の影響を受けている。だとすれば、私たちはそれからどこまで自由なのだろうか。つまり、私たちはどこまで、物事を自由に捉えたり考えたりできるのだろうか。

（古田徹也『言葉なんていらない？』、出題上の都合により一部改変）

問一 二重傍線部 a 「五月雨」について、以下の問いに答えなさい。

(1) 「五月雨」の読み方として最も適切なものを、次の①～④から一つ選びなさい。

- 15 ① しぐれ ② ひさめ ③ さみだれ ④ しゅうう

(2) 「五月雨」の意味として最も適切なものを、次の①～④から一つ選びなさい。

- 16 ① にわか雨 ② 長雨 ③ 篠突く雨 ④ 通り雨

問二 二重傍線部 b・d の漢字表記で用いられる部首を、次の①～④からそれぞれ一つずつ選びなさい。

17 b 「ヒヨウホン」

- ① こざとへん ② きへん

- ③ のぎへん ④ にんべん

18 d 「オントウ」

- ① こざとへん ② きへん

- ③ のぎへん ④ にんべん

問三 二重傍線部 c・e と同じ漢字を用いるものを、次の①～④からそれぞれ一つずつ選びなさい。

19 c 「ナイセイ」

- ① イッセイ蜂起 ② 時期ショウソウ

- ③ 戸籍ショウホン ④ 中央ショウチョウ

20 e 「カテイ」

- ① 百代の力カク ② 人相フウテイ

- ③ 記念品のゾウテイ ④ カコンを残す

問四 傍線部ア「成長して伝統へと入っていく」とあるが、ここではどのようなことか。最も適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

21 ① 子どもが言語を習得する前提として、他者との関係や社会の規範を学びながら、その社会の一員となっていくこと。

② 子どもが言語を介して世界を理解し、その社会に固有の物事の捉え方や価値観を自然と身につけていくこと。

③ 子どもが言語を習得しながら、他者が属している社会の伝統文化や伝統芸能などの知識を学習していくこと。

④ 子どもが言語を学習することによって自分自身の視点や思考を育み、独自の視点を持つ存在へと成長していくこと。

問五 傍線部イ「工具の使い方を学ぶようなものだ」で用いられている表現技法は何か。最も適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

22 ① 擬人法 ② 隠喩 ③ 対比 ④ 類比

問六 傍線部ウ「倒木・エ「木材」の例と同様の事柄を説明するため

の例として最も適切なものを、次の①～④から一つ選びなさい。

23 ① 同じ風景を見て、気分が沈んでいる時には暗い風景だと感じ、明るい気分の時には美しい風景だと感じたりする。

② 子どもの頃には何とも思わなかった地元の風景が、大人になつてみると懐かしくも美しい場所に見えるようになる。

③ 「ぐちゃぐちゃ」としか思えなかった抽象画を、表現技法の理解に基づいて読み取ることができるようになる。

④ 以前には誰も使わなかった古いフィルムカメラが、今では「レトロで味がある」ものとして再び人気になる。

問七 空白部 A に入る最も適切な言葉を、次の①～④から一つ選

びなさい。

- 24
- ① 類似した相貌の事象の共通点を導くことを
 - ② 物事の相貌に内在する本質を見抜くことを
 - ③ 物事をどのような相貌の下で捉えるかを
 - ④ いかに関背後にある構造を再構築するかを

問八 傍線部オ「こうした違い」が生じるのはなぜか。最も適切なものを次の①～④から一つ選

びなさい。

- 25
- ① 私たちは生得的に現実を正しく捉える能力を備えているわけではなく、現実の理解には人によって差が出るものだから。
 - ② 私たちが現実ととらえている世界は、その社会で使われている言語の使い方や慣れによってかたちづくられているから。
 - ③ 言語の第一の機能は情報を伝達するという点にあり、私たちの語彙は情報伝達の正確性に左右されるものだから。
 - ④ 現実の捉え方は社会的環境によって決定されるもので、それが語彙を選択する際の意思決定に大きな影響を与えているから。

問九 空白部 B に入る最も適切な言葉を、次の①～④から一つ選

びなさい。

- 26
- ① その内容自体をかたちづくる役割も果たしている
 - ② 認知内容の形成は物事の特定の相貌に依存している
 - ③ 「現実世界」は特定集団の言語習慣とは無関係に成立している
 - ④ 伝達の最中に内容を調整し、部分的に構成を変える機能を持つ

問十 傍線部カ「いずい」は「居心地が悪い様」等を表す方言であるが、

ここで方言の例が出されるのはなぜか。その理由を説明したものと

して最も適切なものを、次の①～④から一つ選

びなさい。

- 27
- ① 方言もまた言語の一種であることから、あえて方言を使用することで方言の多様性と多義性を理解しやすくするため。
 - ② ある言語でしか表現できない感覚が存在することを示し、言語が感覚や思考の形成に関与していないことを強調するため。
 - ③ 言語が翻訳困難であることを示し、日本語が欧米語と比べて特殊な言語体系や感覚世界を有していることを示すため。
 - ④ 特定の地域に限定された言語話者が、他地域の言語話者に対して、いかに異なった現実世界を生きているのかを示すため。

問十一 傍線部キ「その相貌」とはどのようなものか。最も適切なものを次の①～④から一つ選

びなさい。

- 28
- ① 言語が根ざす文化的な伝統に参画することによって、初めて立ち現れる物事の本来的な表情。
 - ② 言語が伝達的手段ではないことを理解し、他の言語には翻訳できない言葉を用いて発話した際に現れる言語の側面。
 - ③ ある言語の使用を通して方向づけられた関心や理解の枠組みによって、言語に与えられる一定の側面。
 - ④ 言語を通じて方向づけられた関心や理解の枠組みによって、物事が特定の仕方

で立ち現れる様態。

問十二 問題文の内容と合致するものを、次の①～④から一つ選びなさい。

29

① サピアによれば、言語は単に情報伝達や自分のなかでの振り返りの手段として存在しているわけではない。私たちが認識する「現実」は、特定の集団が使う言語の習慣によって、無意識のうちにかたちづくられているのである。

② 言語の語彙や表現は、その社会の歴史的・文化的背景を反映しており、異なる言語圏では異なる区別や認識が生まれる。サピアによれば、こうした認識の相違は、言語の不自由さを示すものであると同時に、言語の自由さを語るものでもある。

③ 日本語の「せつない」や「いずい」などの言葉は、他の言語でも簡単に置き換えられる。サピアによれば、これらの表現は、言語があくまでコミュニケーションの道具にすぎず、思考や感情の枠組みとは関係がないことを示している。

④ サピアによれば、人は伝統のなかで言語を学ぶことによって、物事をどのように捉え、理解し、表現するかという認識の枠組みを身につける。だからこそ、日本人の生活には牧畜や乳製品、牛食といったものが根付かなかったのだと言える。

Ⅲ

次の問題文は『住吉物語』の一節である。これを読み、後の問いに答えなさい。

* 都を出奔した姫君は、侍従とともに住吉（現在の大阪市住吉区周辺）の尼君のもとに身を寄せていた。姫君を恋慕していた少将は、姫君の行方を追って住吉を訪れる。

さらぬだに、旅の空は物あはれなるに、夕波千鳥あはれに鳴き渡りて、岸の松風物寂しき空に、箏（注1）の琴（注2）の音ほのかに聞こえけり。その声、盤渉調に調べて、けだかく澄みわたりけり。「あなゆゆしの、人のしわざにはよも」などと思ひながら、その音に誘はれて、何となく立ち寄りて聞けば、釣殿（注3）の西面に、若き声二、三人がほごしけり。琴かき鳴らし、「松風、波の音もなつかしく、あはれ、都の人にかかる所を見せばや」などと語らひつつ、「秋の夕べはあはれなるに」など言ひて、何となき古歌をながめけるを、侍従に聞きなして、あな A と、胸うち騒ぎ、心をとどめ聞きたまへば、いま少し忍びたる声して、

(X) 尋ねべき人もなぎさの住（注4）の江にたれ松風の絶えず吹くらむ

とながめたまふを、聞きたまへば、姫君の御声と聞きなして、「あなゆゆし、仏の御するしはあらたなる御ことにて」とうれしくて、簀子（注5）に立ち寄りてたたけば、侍従、「あやし、たれなるらむ」とのぞけば、寄りかかりたる姿の、夜目にもしるくて、「A」や、少将殿のおはしたるぞや。いかイが」と申せば、姫君、「あはれにもおはしたるにこそ。さりながら、人聞きあしかりなむ。我はなしと申し聞こえよ」とあれば、侍従出で会ひて、「こはいかに、あやしの所までおぼし立たせたまへるぞや。そののち、姫君を失ひまゐらせて、慰みがたさに、かくまよひはべるな

り。見まゐらせさぶらへば、いよいよ昔恋しくこそ」とて泣きはべる。「侍従の君のことをこそしのびしに、恨めしくものたまふものかな。御声までうけたまはりさぶらふに。おぼろけにてや、尋ね来たりつる。かく参りたるをば、あやしき武士なりとも、あはれと思はぬ人やさぶらはむ。よしよし、さらば帰りなむ」とて、直衣（注6）の袖を顔に押しあてて、「憂きもつらきも、知らせたまはぬにこそ」とて嘆きはべれば、侍従こオとわりと思ひて、「さるにても、足やすめさせたまへ。都のこの恋しきはべるに」とて、尼君に、このよしを言ひあはすれば、「ありがたき御ことにこそ。たれたれも、あはれを知りたまへかし。まづこれへ、入らせたまふべきよし申せ」とて、侍従、「馴れ馴れしくなめげなれども、その昔のゆかりなれば、さのみこそ。疾く立ち入らせたまへ」と申しければ、少将入りたまひぬ。

注1 箏の琴——十三弦の琴。

注2 盤渉調——雅楽の調子の一つ。

注3 釣殿——寝殿造りで、池に面して設けられた建物。

注4 住の江——「住吉」の古名。

注5 簀子——建物の外に、細い板や竹を並べてつくった縁。

注6 直衣——上流貴族の日常服。

問一 二重傍線部 a～d の文法的説明の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④から一つ選びなさい。

- 30
- | | |
|-------------|-----------|
| ① a 断定の助動詞 | b 形容動詞の一部 |
| c 過去の助動詞 | d 完了の助動詞 |
| ② a 断定の助動詞 | b 形容動詞の一部 |
| c 動詞 | d 打消の助動詞 |
| ③ a 形容動詞の一部 | b 断定の助動詞 |
| c 過去の助動詞 | d 完了の助動詞 |
| ④ a 形容動詞の一部 | b 断定の助動詞 |
| c 動詞 | d 打消の助動詞 |

問二 波線部 1 「よも」の後にはどのような語句が省略されているか。

最も適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

- 31
- | | |
|--------|-------|
| ① ありける | ② ありそ |
| ③ あらむ | ④ あらじ |

問三 波線部 2・3 の敬語についての説明として最も適切なものを、次の①～④から一つ選びなさい。

- 32
- | |
|-------------------------------|
| ① 2 は侍従への敬意を、3 は姫君と少将への敬意を表す。 |
| ② 2 は侍従への敬意を、3 は少将と侍従への敬意を表す。 |
| ③ 2 は姫君への敬意を、3 は姫君と少将への敬意を表す。 |
| ④ 2 は姫君への敬意を、3 は姫君と侍従への敬意を表す。 |

問四 空白部 A (二か所) に入れるのに文脈上最も適切な語を、

次の①～④から一つ選びなさい。

- 33
- | | |
|--------|--------|
| ① あさまし | ② あいなし |
| ③ むつかし | ④ すさまじ |

問五

傍線部ア・イ・エ・カの意味として最も適切なものを、次の①～④からそれぞれ一つずつ選びなさい。

③4 ア「松風、波の音もなつかしく、あはれ、都の人にかかる所を見せばや」

① 松風や波の音が実に古めかしく感じられ、ああ、都の人はこのような場所を見せたいだろうよ

② 松風や波の音が実に古めかしく感じられ、ああ、都の人にこのような場所を見せたいものだよ

③ 松風や波の音も親しみが感じられて、ああ、都の人はこのような場所を見せたいだろうよ

④ 松風や波の音も親しみが感じられて、ああ、都の人にこのような場所を見せたいものだよ

③35 イ「人聞きあしかりなむ」

① 外聞が悪いということだ ② 世間体が悪いだろう

③ 外聞が悪いはずがない ④ 世間体をはばかってほしい

③36 エ「おぼろけにてや、尋ね来たりつる」

① ぼんやりとした気持ちで、訪ねて来たのだ

② ぼんやりとした気持ちで、質問しているのか

③ 並大抵の気持ちで、訪ねて来たというのか

④ 並大抵の気持ちで、質問しているというのか

③37 カ「馴れ馴れしくなめげなれども」

① ぶしつけで怒りが湧いてくるけれども

② ぶしつけで失礼ではあるけれども

③ 気さくで魅力的ではあるけれども

④ 気さくでやや浮ついてはいるけれども

問六

(X)の和歌の説明として最も適切なものを、次の①～④から一つ選びなさい。

③38 ① 姫君が詠んだ歌で、「人もなぎさ」には「人も無き」と「渚」を、「松風」の「松」には「待つ」を掛けている。

② 姫君が詠んだ歌で、「住の江」には渚に住む意味を、「たれ」には「誰」と涙の滴が垂れる意味を掛けている。

③ 侍従が詠んだ歌で、「人もなぎさ」には「人も無き」と「渚」を、「松風」の「松」には「待つ」を掛けている。

④ 侍従が詠んだ歌で、「住の江」には渚に住む意味を、「たれ」には「誰」と涙の滴が垂れる意味を掛けている。

問七

傍線部ウ「恨めしくものたまふものかな」とあるが、「恨めしく」思ったのはなぜか。最も適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

③39 ① 戸を叩いてもすぐに迎え入れてくれなかったから。

② 姫君が失踪したことを教えてくれなかったから。

③ 嘘を言って姫君と会わせないようにしているから。

④ 侍従を頼みにしていたのに冷淡な態度をとるから。

問八

傍線部オ「侍従ことわりと思ひて」とあるが、侍従はなぜそう思ったのか。最も適切なものを次の①～④から一つ選びなさい。

40

① 少将は姫君の声を聞いているのに、姫君に会わせないのは情け容赦がないと思ったから。

② 少将と対面しているのに、少将は姫君のことばかりを考えているのが不快に思ったから。

③ 少将は姫君の声を聞いているのに、姫君が逃げ隠れてしまったのは失礼だと思ったから。

④ 少将と対面しているのに、まったく打ち解けた様子を見せないのは気まずいと思ったから。

問九

問題文の内容と合致するものを、次の①～④から一つ選びなさい。

41

① 姫君は少将の来訪に心を打たれ、対面を望んだが侍従はそれを拒んだ。

② 侍従が尼君に相談したところ、尼君は少将を招き入れるように命じた。

③ 落胆した少将は、身分の低い武士になって姫君の同情を得ようとした。

④ 姫君が詠んだ歌を耳にした少将は、うれしさのあまりすぐに返歌を送った。

問十

『住吉物語』は鎌倉時代に改作された物語で、原作は平安時代の成立と考えられている。平安時代に活躍した人物を次の①～④から一つ選びなさい。

42

① 柿本人麻呂

② 世阿弥

③ 和泉式部

④ 阿仏尼

国語の問題はここまでです

